

(様式第7号)

平成30年度 年度評価表

1 指定管理施設の概要

施設名	舞鶴市大丹生コミュニティセンター		
指定管理者	西大浦産業株式会社		
設置目的	市民の文化体育活動を促進し、もって豊かな地域社会の形成に寄与するため。		
選定方法	公募・非公募	指定期間	平成26年4月1日～平成31年3月31日
所管課	市民文化環境部地域づくり・文化スポーツ室地域づくり支援課		

2 利用状況等の推移

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利用者数(人)	8,648	7,614	7,550	8,448	7,944
利用料金(円)	523,850	512,500	593,700	533,500	490,800
指定管理料(円)	8,128,000	8,264,000	8,128,000	8,128,000	8,128,000

3 成果(数値)目標の達成状況

成果(数値)目標の種類	市設定目標	年間目標(A)	実績(B)	達成率(B/A)
施設の利用者数	8,500人	8,500人	7,944人	93%

4 収支状況

(円)

収入		支出	
利用料金	490,800	人件費	2,585,726
指定管理料	8,128,000	維持管理費	6,257,402
事業収入	0	事業費	5,792
その他	16	その他	0
合計	8,618,816	合計	8,848,920
差額			△230,104

5 所管課による評価

項目	評価	コメント
(1) 事業計画の達成度		
成果(数値)目標を達成しているか	△	地域組織の解散による地域行事の減少、暗幕故障で猛暑時期のアリーナ利用者が若干減少したのは残念だが、営業活動、利用者への地道なPR活動等により、ゲートボールやプール利用者の取り込みにつながっている。
施設の将来的な構想(ビジョン)に沿った運営を行ったか	○	地区外からの利用者の取り込みも増加しており、地域住民交流のための拠点施設として利用されている。
施設の果たすべき使命(ミッション)を果たしたか	○	住民に広く開放され、文化体育活動等の促進のために利用されている。
市指定事業、自主事業は計画どおり行われたか	○	計画どおり実施されている。
利用者数の増加、利用率の上昇などが図られたか	○	地域組織の解散による地域行事の減少、暗幕故障で猛暑時期のアリーナ利用者は減少したが、ゲートボール場とプールの利用は地道な営業活動の実施等により増加している。
(2) 利用者の満足度		
利用者の満足が得られたか	○	施設利用者からは、清掃が行き届き、清潔感ある施設であるとの感想が寄せられている。
利用者の意見・要望の把握は適切に行われたか	○	アンケート・聞き取りを実施した。
利用者の要望・苦情への対応は十分に行われたか	◎	利用者の要望・苦情を聞き取り、アリーナの競技ラインの維持等、より良いサービス向上のため、要望への対応、清掃点検を随時実施し対応している。雨漏り対応は資産マネジメント推進課、暗幕修繕については、財政担当課と協議を継続していく。
(3) 管理運営の効率性		

経費の節減が図られたか	△	節電・節水に努め、経費節減を実施している。施設の老朽化により漏水が発生し水道料金が上がった。
委託費、物品の購入費等の経費が最小となるような取組が行われたか	○	業務委託の複数年契約による割引利用を行った。
収入増加のための取組が行われたか	◎	地元講師による各講座の受入れ、ゲートボール利用者への営業、他施設利用時のプール宣伝等地道な営業活動を実施し、ゲートボール場、プール利用者は前年より増加している。
(4) 適正な管理運営		
適切な人員配置が行われたか	○	適切に行われていると思われる。
職員の能力向上のための取組が行われたか	◎	研修実施や職員に情報の共有化を図るとともに、それぞれ問題意識を持って仕事に取り組んでいる。
施設の平等な利用が行われたか	○	適切に行われていた。
個人情報の管理が適切に行われたか	○	適切に行われていた。
情報の公開が適切に行われたか	○	適切に行われていた。
収支状況や会計処理が適切か	○	適切に行われていた。
施設・設備の法定点検及び保守が適切に行われたか	○	適切に行われていた。
備品等の管理が適切に行われたか	◎	適切に行われていた。
危機管理、安全対策などは十分か	○	備品の安全点検を随時実施し、危険個所の排除、修繕、プール監視員配置、危機管理マニュアルの設置、緊急連絡体制確保を実施することにより対応している。
法令等を遵守し、適正な管理が行われたか	○	適正に行われていた。
(5) その他コメント		
サービス向上		地域組織が解散していく中、地域の子ども会行事、消防団訓練等に対し積極的に協力することで地域振興に寄与している。各講座は相変わらず、好評を得ており、水泳教室は自己の目標に向かい努力する小学生たちの自主的な活動につながり、手芸教室は趣味を生かしながら地域住民どおしの仲間作りと、楽しみづくりにも寄与し生涯学習の役割の一つとして実施されている。 また、地区外の更なる利用者の取り込みのために、ゲートボール利用者や施設利用時のプール利用の案内、HP開設等積極的に周知活動に取り組み利用者増につながった理由として評価できる内容であった。しかし、苦情にも寄せられているとおり、暗幕の故障で猛暑時のアリーナ利用者が減少したことは残念な結果となった。 今後も継続して利用率向上策を検討し利用者増加につなげていくことが必要である。
経費削減		常日頃から節電・節水に努め、管理業務を委託する時は、複数年で契約し割引を得ることができるよう経費削減対策を実施している。しかし、施設の老朽化で漏水が発生し水道料金が高額になってしまったことは残念だった。
施設の維持・管理		定期的な施設点検を実施し、備品等の安全確認と危険個所を発見した場合は、早めの修繕等を実施し、また、館内清掃も非常に行き届いており利用者に快適に利用してもらえるよう誠意努力されている。

※ (1)から(4)までにおける評価区分

- ◎(優)： 協定書、仕様書等の基準を遵守し、その水準より優れた内容である。
- (良)： 協定書、仕様書等の基準を遵守し、その水準に沿った内容である。
- △(可)： 協定書、仕様書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- ×(不可)： 協定書、仕様書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な内容である。

6 選定委員会による評価

評価点	3.25点	※左記の点数は、各委員が次の5段階評価を行い、その点数を平均したものです。 5：良い、4：やや良い、3：普通、2：やや悪い、1：悪い
総評	市街地から遠いにもかかわらず、利用者数をよく維持されていると思う。	

《参考》 過年度の評価点

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平均
4点	3.28点	3.33点	3.83点	3.61点